

# コトバカっ!



コトバカ  
言葉家……言葉を操る専門家。言葉にバカに詳しい人。言葉にバカみたいにこだわる人。

コトのほかバカ。コトによるとバカ。コピーライターの俗称。

上から読んでも相川藍、下から読んでも相川藍。コトバカの相川藍が言葉についてコトバカるっ!

## メール佳き哉!

「尾根ギア」という言葉を知らなかった。つい最近「よろしく尾根ギアします」という文を目撃するまでは。もちろんこれ、「山の尾根をクルマで攻める時はギアをしっかりと入れますね」という意味ではない。「よろしくお願いします」とメールを早打ちする際にやっつしまっ、ポピュラーなタイプミス、漢字変換ミスなのだ。ツリーリングの季節には悪くない文字面だと思っ。少なくとも「よろしく汚値偽悪します」よりは。

こつこつミスならあとで訂正できるけど、何を間違えたのかわからない操作ミスは恐怖。先日ケータイに「すてきな便箋での返信ありがと」というメールを受信した。私のメールは何らかの理由で「すてきな便箋的レアウト」で送信されてしまったようなのだ。ピンセンなんて言葉すら忘れていた日々、まさかケータイメールにそんな機能があるとは! 相手は目上の方なので焦る。ど、どんな便箋だったんだろう?

世代の違う人からもらうメールには新鮮な驚きがあり、勉強になる。平成ひとけた世代(現在15~24歳)のメールも面白いけど、私が感銘を受けたのは昭和ひとけた世代(現在78~87歳)のメール。あるイベントについて、ダンディな(この世代の紳士を表現するにはびつたりの言葉ですね)T氏とやりとりした実例を意訳付きでご紹介してしまおう。

まずはタイトルの「深更感謝」でつまずく。辞書を引くと深更とは夜ふけ。T氏は深夜の私のメールに感謝してくれたのだ。本文に目を移せば「一瞥頂ければ幸甚(ちらっと見てくれると大変ありがたい)」「善は急げで佳き哉(早めの開催もいいですね)」「など難易度の高い言葉が並んでいる。そうかと思えば「アベイラブルです(都合がつかます)」「と不意に英語が混じるのも、海外駐在経験が豊富なT氏らしくファンキーだ。シメは「駄弁ご寛恕(ムタなおしゃべり大目にみてね)」「で鮮やかに着地! 添付の地図にはだめ押しのように「概念図で御容赦(大まかな地図だけど許して)」とあった。嗚呼、シビれるわ。

相川藍(言葉家)

丸の内文学賞(大賞)、朝日広告賞(最高賞)、インターネット書評コンテスト(最優秀賞)受賞。早稲田大学第一文学部卒。コピーライター。